

特35

805

神葬略説

全

014216-000-1

特35-805

神葬略説

栗田 寛/著

M7

ABB-0537



栗田先生著

神葬畧説

考古堂藏梓

緒言

此書ハ我師栗田先生世俗ニ神葬ノ原由ヲ知ラ
セマ欲トテ古典ノ中ヨリ其要トアル所ヲ撮ミ
テ大畧ニ記サレタルナレト上木ニスバカリノ
モノニハアラシト固辭玉フヲ信正トミニ乞得
テカクハモノシツル也扱世ニ神葬ト云ヘバ佛
葬ニ對ヘタル名ノ如ク思フメレド然ニハ非ル
一萬葉ノ歌ニ徵アレハ即コノ書ヲ神葬畧説ト
ハ題號ラレタルニコソ猶其一二委曲説トモハ
嚮ニ先生ノ著サレタル葬禮私攷一卷波夫理和

神葬畧説

栗田先生著

神葬畧説

考古堂藏梓

緒言

此書ハ我師栗田先生ヨノト世俗ニ神葬ノ原由ヲ知ラ
セマ欲トテ古典ノ中ヨリ其要ムチトアル所ヲ撮ミ
テ大畧ニ記サレタルナレト上木スリマキニスバカリノ
モノニハアラジト固辭カタクイナミ玉フヲ信正トミニ乞得
テカクハモノシツル也扱世ニ神葬ト云ヘバ佛
葬ニ對ミカヘタル名ノ如ク思フメレド然シカニハ非ル
一萬葉ノ歌ニ徵メシアレハ即イカテコノ書ヲ神葬畧説ト
ハ題號ナヅケラレタルニコソ猶其一二委曲ツハラナル説トモハ
嚮サキニ先生ノ著サレタル葬禮私攷一卷波夫理和

神葬畧説

謝考二卷アルヲ就テ見ネカシ我ト志ヲ同フス
ル古ヘ學ビノ徒ヨ

明治七年六月

教子 甲斐國人

板垣信正識

神葬畧説

常陸 栗田寛 撰述

凡ソ人トシテ世ニ在ル者、誰シモ父母ノ遺體ニ
非ルハナク、父母ハ又先祖ノ血脈ニシテ、其先祖
ノ根原ハ、即天神ヨリ出タルヲ著ケレバ、天下ノ
人ハ皆天神ノ後胤末裔ニ非ズト云フナシ、扱今
日食フ所ノ米穀ハ、天祖天照坐皇大神ノ天狹田
長田ニ殖始メ給ヒシ米穀ナリ、今日衣ル所ノ衣
服モ、又大神ノ機殿ニ御坐テ織始メサセ玉ヒシ
衣服ナリ、其它居家ヨリ凡百ノ器用ニ至ルマデ、

何レモ神々ノ始メ給フ所ナレバ、人タル者少シ
 モ天祖天神ノ恩惠德澤ニ洩ル、モ一アルベカラ
 ズ、生テ既ニ神恩ヲ蒙ル者、死シテモ亦天神ノ定
 メ置セ給ヘル神葬ハ禮ニ從フベキ一云迄モナ
 シ、抑、人身死ヌレバ、其神魂ノ天ニ昇ル、一高橋氏
 文ニ景行天皇磐鹿六獵命ノ身マガリシ事ヲ、卒
 上タリト聞食シトモ、マタ虚御魂モ聞タベト白
 ストモミエ、萬葉集ノ歌ニ、高照日ノ皇子ハ、云々、
 天原石戸ヲ開キ、神上リ上リ座ヌ、マタ高光日ノ
 皇子、久堅ノ天宮ニ、神隨神ト座セバ云々ナドミ

エ、天皇命ダチノ御ウセ玉ヘル一ヲ、カムアガリ
 ト申シ奉ルハ、神上リノ義ニテ、神魂ノ天ニ上リ
 テ、神トナリ玉フ由ノ古傳ト聞エタリ、又此土ニ
 天翔ル一ハ、景雲三年ノ宣命ニ、新城ノ大宮ニ天
 下治メ賜ヒシ中都天皇ノ臣等ヲ召テ、後ノ命ニ
 勅玉ハシク云々、頑ニ無禮心ヲ念テ、横ノ謀ヲ構
 へ、如是在ム人等ヲバ、朕必天翔リテ見行シ退給
 ヒ、云々、又物語書ニ、天翔リテモ、イカニ甲斐ナク
 見給フランナドモアレハ、天ニ昇リ居ル靈魂ノ
 時アリテハ、此國ニ翔リ來ル一モアル也、又神魂

ノ墓所ニ留リモシツルノ傳ヘハ、仁徳天皇ノ
 御世ニ、上毛野君田道が墓ヲ、蝦夷等掘發キシニ、
 田道ノ靈大蛇ト爲テ、蝦夷ヲ咋殺シ、又日本武尊
 神靈ヲ顯シテ、陵守目杵忽ニ白鹿ニ化テ走リツ
 トアルガ如シ、カク神魂ハ天ニモ國ニモ、遺骸ヲ
 葬メシ處ニモ往來モノニテ、其運用ノ異シキヲ、
 更ニ言ニ述盡ス可能ハズ在ト思ヘバ無ガ如ク、
 無シト思ヘバアリテ、其即テ神ナル故ニ、葬ラバ
 古ヘ神葬ト申シテ、白細ニ裝束カザリテ、甚スカ
 くシク、御世々々ニ山陵ノ祭リヲ重シシ、荷前ノ

幣ヲ奉リテ、陵靈ヲ和メ奉ル事ヲ思ヒテ、人々ヨ
 ク吾身ハ父母ノ遺體、父母ハ先祖ノ血脈、先祖ハ
 又天神ノ後胤末裔ニシテ、食フ物衣物住家等ヨ
 リ始テ、凡百器用皆天神ノ恩惠ニ出ルヲ知ラ
 バ、先祖ノ神靈ヲ祭リ、父母ノ遺骸ヲ葬ルモ、必ズ
 皇朝ノ典禮ニ從フベキヲ思ヒ辨ヘナム、然ハ
 アレド我皇國ノ大道久シク衰ヘシヨリ、葬祭ノ
 禮モ絶テ世ニ行ハレザリシ故ニ、天下ノ人推ナ
 ベテ、上代ニハ葬祭ノ禮ハナキモノ、如ク思フ
 メルハ、甚歎カハシキワザ也、故ニ今古典ニ見エ

タル葬禮ノ大畧ヲ舉テ、聊カ之ヲ示サン、抑神代ノ昔天稚彦ガ死シ時、喪屋ヲ造リテ殯シ、持傾頭者持帚者、春女御食人尸者、造綿者、冥人者ナド云フヲ任シテ、八日八夜啼哭悲歌トミエタリ、喪屋トハ人死シテ未葬リアヘヌ間、姑ク収置ク屋ヲ云リ、又之ヲ阿羅紀トモ云テ、天皇皇子ナドノヲハ、其宮ヲ設クルニテ、殯宮ト申セリ、尸者ハ顯宗紀ニ謁者ヲモノマラシト訓ルガ如キ義ニテ、葬禮ノ事ヲ取扱フ人ト聞エ、春女ハ死者ノ靈ニ備フル米ヲ舂クモノ、御食人ハ食膳ノヲ掌リ、

冥人ハ鳥獸ノ肉ヲ調フル者ナリ、死者ニ食ヲ進ムルヲ、喪葬令、集解景行天皇崩御ノ事ヲ云ル條ニミエテ、和名抄具 祭祀ニ、染餅、染之度岐、祭餅也、糶米加之與、糶淨米也、糶米、精米、所以享神也、久萬之糶トアル、染米ハ今云、白餅、糶米、糶米、今云、洗米トリ、然レハ上代ニ殯ニモ、其米ヲ舂テ此等ノ物ヲ莫ヘシナルベシ、造綿者ハ、棺内ノ空處ヲ上代ニハ綿ヲ以テツ、填メケン、其綿ヲ造ルモノナルベシ、持傾頭者ハ、私記ノ師說ニ、送葬之時、戴死者食片行之人也トミエ、武烈天皇ノ御世、鮪臣ガ殺サ

レシ時、其妻影媛が埋葬セシヲ讀シ歌ニ玉筥
 ニハ飯サヘモリ玉盃ニ水サヘ盛リトアルヲ合
 セテ飯マタ水ヲ器ニ入レテ送シヲ知ルベク、
 持帚者ハ葬ノ時帚ヲ持テ行ク者ナリ、カク喪ヲ
 掌ル者アリシ時ハ棺擲衣衾ノ具ハ言フマデモ
 ナク、各々其禮儀アリシヲモ推測リツベシ、ハ
 日八夜ハ古事記ニモ如此行定而、日八夜ハ夜
 以遊也トミエ、舊事紀饒速日命神殞坐ル條ニ、處
 其神屍骸日七夜七以爲遊樂哀泣云々、マタ喪葬
 令集解ニ、景行天皇崩時、七日七夜御食ヲ奉ラザ

ルニヨリテ、御魂ノ荒ビマセルトミエ、日本靈異
 記ニ、小子部栖輕ガトヲ、栖輕卒也、天皇勅留七日
 七夜詠彼忠信トアルニテ、古ハ喪ヲ八日八夜、或
 ハ七日七夜ナド留ムルガ例ナリシト知ベシ、天
 皇子ハ此限啼哭悲歌トアルヲ、古事記ニハ以遊
 也トミエ、漢籍ニ皇國ノトヲ記セルニハ、其死停
 喪十餘日、家人哭泣不進酒肉、而等類就歌舞爲樂
 ト云ルヲ合セテ考フルニ、家人親戚ハ其處ニ集
 ヒテ、八日八夜が間啼悲ミ、郷黨朋友ハ歌舞セシ
 モノト見エタリ、サテ喪ニ歌舞スルハ、何ノ故ゾ

ト云ニ、マヅ人ノ死タルハ、掛卷モカシコケレ、
 彼天照坐皇大神ノ天岩屋ニ隱坐テ、世ノ闇夜ニ
 ナレリシニ類タル故ニ、其時ノ故事ヲマネビテ
 歌樂テ、其人ヲ復此世ニ還リ玉ヘト招禱ル意、即
 其人ヲ死セリトスルニ忍ビガハ、醇厚風俗ヨリ
 起レルトニテ、夫即テ禮儀トハナリシ也、是ヨリ
 サキ素盞鳴尊ノ木種ヲ殖生シ玉ヒテ、披ハ顯見
 蒼生ノ奥津棄戸ニ將臥之具トスベシト詔ヒシ
 ニ因バ、天稚彦ガ時モ、棺ヲバ披モテ作りシニヤ
 アラン、扱將臥之具トハ、私記ニ、問、是何用哉、答、是

作棺也、死久臥仆故云將臥耳トアリ、是ニテ古ヘ
 ハナベテ棺ヲバ人ノ臥シタル隨ニ入ルベク、臥
 棺ニ作レリシトモ知ラエタリ、石擲ハ、神代瓊々
 杵尊ヨリ始テ、御世々々ノ山陵ノ石擲ナルト、又
 崇神天皇ノ御世倭迹々姫命ノ墓ヲ石モテ作り、
 垂仁天皇ノ御世ニ石棺ヲ造リ、石作連ヲ定、玉ヒ、
 又土師連埴ヲ以テ人馬及種々ノ物形ヲ作レル
 トミエタレバ、此後ハ天皇マタ高貴ノ人々ハ石
 槨ヲ造リ、又埴輪ヲモ用ヒラレシ也、埴輪トハ私
 記ニ山陵縁邊作埴人形立如車輪者也トアルガ

如久、陵墓ノ廻リニ、埴土モテ作レル種々ノ人馬
 ドモフ立シモノ也、饒速日命ノ天羽々弓、天羽々
 矢、神衣、帶、手貫三物ヲ登美白庭邑ニ歛メテ墓ト
 ストミエ、日本武尊ノ神靈白鳥ト化テ飛去リ玉
 ヒシ時、棺槻ニ明衣ノミアリ、又河内ニ陵ヲ作り
 シニ、猶高翔リテ天ニ上リマシ、故ニ徒ラニ衣
 冠ヲ葬ルトアリ、扶桑畧記康平六年五月ノ下ニ、盜人發池
 後山陵、掠奪寶物也、マタ後ノモノニ同山陵ノ石
 棺ヲ開キテミシニ、太刀短刀鏡アリトミエ、又諸
 國ノ古冢ヨリ曲玉管玉刀矛鏡鏃ノ類ヲ掘出ス

ヲミルニ、位高キ人ノ棺槨中ニ右ノ品々ヲ藏メ
 シヲ知ベシ、又日本武尊ノ靈ノ飛去、玉ヲ跡ヲ追
 テ、皇妃タチノ悲ミツ、歌ヨミシ玉ヘル歌ヲ世
 々ノ天皇ノ大御葬ニ歌フトアリ、又遊部ト云者
 アリ、一人ヲ禰義、一人ヲ余此ト云テ、天皇崩マセ
 ル時、殯所ニ至テ、禰義ハ刀ヲ負ヒ、戈ヲ持テ、余此
 ハ酒食ヲ捧ゲ、又刀ヲ佩キ、内ニ入テ仕奉ルニア
 リ、又樂器ヲ用ヒシトハ、允恭天皇崩御ノ時、新羅
 王調船八十一艘ヲ貢シ、難波ニ至リテ素服ヲ着
 種々ノ樂器ヲ張リテ、或哭泣或ハ歌舞シテ、殯宮

ニ參會ツトアリ、コハ御奴國ナル故ニ、皇朝ノ禮儀ヲ學ビツトミユ、繼體天皇ノ御世、近江毛野ガ送葬ノ時、其妻ノ歌ニ、平方ユ、笛吹上ル、近江ノヤ、毛野ノ若子イ、笛吹上ルトアリ、喪葬令ニ、金鉦、鑊鼓、大角、小角ナドノ樂器モアリ、後深草龜山天皇ノ御世頃迄モ、鼓吹ヲ用フルトアリト思ハル、ハ

廣東新語 猶神代ニ歌舞セシ遺風ナルベシ、又常陸風土記

ニ、黑坂命ノ葬儀ニ、赤幡青幡ヲ立シトミエ、萬葉集

ニ、青幡ノ、木幡ノ上ニ、カヨフトハ、目ニハ見レドモ、

タヅニ逢ヌカモ、又靖火ノ、モユル荒野ニ、白妙ノ天

領巾ガクリ、鳥シ物、朝立マシテ、云々、コノ天領中隱ハ、送葬ノ旗ヲ云、柩

ノ前後左右ニ旗ヲ 持サマナリ、ト云歌ミエ、令ニ、幡五百竿、四百竿、或ハ三百五十竿、類聚三代格延曆十一年ノ官符ニ、豪富之輩、云々假設幡幢ナドアルモ、上古ヨリノ禮儀ナリシナルベシ、又誄ヲ申ストハ、敏達天皇崩御ノ時、誄ヲ奉リシトミエタルヲ始ニテ、其誄ヲ申ス時ハ、種々ノ幣物ヲ捧ゲ、食膳ヲ供ヘ、後ニ至リテハ、誄申シテ謚ヲ奉ルトモアリ、誄トハ、シヌビコト、又ハシノビコトトモ訓テ、人ノ身マガリタル時、其人ヲ慕ビテ、其靈ニ告フ詞ナリ、高橋氏文ニ、景行天皇ノ

磐鹿六雁ヲ悲ミテ詔ヘル宣命ノ文 其詞ノサマ
 ハ、當時ノ誄詞ナラシトゾ思ハル、
 八、用明紀元年三輪君逆ガ、敏達天皇ヲ誄マラシ、
 續紀天平神護二年ニ載ル、鎌足不比等ニ公ニ賜
 ヘル誄詞ニ見エタルノミナリ、其禮儀ハ、推古天
 皇欽明天皇ノ皇大夫人堅鹽媛ヲ、改葬ノ時、第一
 ニ天皇ノ大命ヲ誄シ、靈ニ莫ル明器明衣ノ類萬
 五千種ナリキ、第二ニ諸皇子次々ニ誄シ、第三ニ
 大臣ノ辭ヲ誄シ、第四ニ蘇我馬子大臣八腹ノ臣
 等ヲ率テ、氏姓ノ本ヲ誄セシム、コノ堅鹽媛ハ、稻
 目ノ女ニシテ、推古天皇ノ御母ニ坐セバ、第一ニ

天皇ノ命ヲ誄申シ、次ニ諸皇子、次ニ大夫人ノ親
 族ナル大臣誄シ、次ニ其氏姓ノ本ヲ誄セシメ玉
 ヘルニテ、誄詞ヲ申スニモ、自ラ順序モアリ、又其
 御禮式アルヲ知ラレ、時ノ人ノ言ニ、摩理勢烏麻
 呂二人ハ能誄シタレド、鳥臣ハ能セサリキト云
 ルヲモテ、其詞ヲ作ルモ讀ムモ、タヤスカラザル
 一知ルベシ、舒明天皇ノ御喪ニ、巨勢臣德太ハ、大
 派皇子ニ代リテ誄シ、次粟田臣細目ハ、輕皇子ニ
 代リテ誄奉リ、大伴連馬飼ハ、大臣ニ代リテ誄シ、
 其次ノ日息長山田公ハ、日嗣ヲ誄シ奉ルヲモ、准

へテ考フベシ、サテ天皇皇子ヨリ公卿大臣國造
 等ノ陵墓ニ至ルマデ、山ノ如ク陵ノ如ク、其石構
 モ甚大キク、筑後風土記ナル、筑紫君磐井ガ墳基ノナドアルニテモ知ルベシ、寶
 龜大同ノ頃サヘ、山陵ノ役夫六千三百人、マタ五
 千人ナドミエタリ、又墳中ニ藏スル器物ドモ、
 數多ニテ、後ハ金銀綾羅五綵ヲ納メテ、甚シキ國
 費ナリシ故ニヤ、孝德天皇改新ノ詔ニ、珠襦玉押
 ヲ施ス_テ勿レト制_ス玉ヒ、王以上ノ墓ハ、一千人ヲ
 役テ、七日ノ内ニ造リ訖シメ、送葬ニハ輜車ヲ用
 ヒ、上臣ノ墓ハ、五百人ニテ造ラシメ、肩輿ヲ擔テ

行シム云々葬時ノ帷帳等ハ、並ニ白布ヲ用ヒシ
 ム、其以下各次第アリ、庶人ハ地ニ収埋メ、帷帳ハ
 麤布ヲ用ヒヨ、凡王以下庶民ニ至ルマデ、殯ヲ營
 ム_テ得サラシムトアリ、又輜車ヲ用ヒシ_テ常
 陸風土記黑坂命送葬ノ條ニ、輸輜車、萬葉集ニ、白
 細ニ、舍人ヨソヒテ、ワダカ山御輿立シテ、久方ノ
 天シラシヌレ、云々、今諸國ニ、棺ヲ神輿ノサマニ
作リテ用フルハ、コノ遺制ナ
 リ、トアルガ如シ、天武天皇崩御ノ時、殯宮ノ儀節
 尤モ詳ナリ、殯宮ヲ起シ玉ヒテ間モナク、甲子ノ
 日、肇テ莫ヲ進リテ、乳母ノ家ナル大海氏壬生ノ

一ヲ誄シ、次ニ諸王ノ事、次ニ宮内、大舍人、左右兵衛、内命婦、膳職、大政官、法官、理官、大藏、兵政官、次ニ民官、諸國司、次ニ大隅阿多隼人、及倭河内馬飼部、造、各誄申シ、次ニ百濟王誄シ、次ニ國々ノ國造、參赴ニ從テ誄シ、種々歌舞ヲ奏ス、次ニ皇太子公卿百寮ヲ率テ、殯宮ニ慟哭シ奉ル、納言布勢朝臣御主人誄奉リ終テ、衆庶哀ヲ舉ゲ、奉膳乳朝臣真人莫ヲ奉リ終テ、膳部采女等發哀シ、樂官樂ヲ奏ス、次ニ皇太子公卿等ヲ率テ、殯宮ニ慟哭シ、華縵ヲ進ル、之ヲ御蔭ト云、是日丹比真人麻呂誄申シ、次

二皇太子慟哭ス、隼人大隅阿多魁帥等互進テ誄ス、次ニ皇太子公卿百寮及諸國司國造等ヲ率テ、大内陵ヲ築キ、次ニ皇太子慟哭シ、次ニ華縵ヲ進リ、藤原朝臣大島誄申シ、次ニ殯宮ニ嘗奉リテ誄シ、十一月皇太子公卿百寮人等諸蕃客ヲ率テ慟哭シ、莫ヲ奉リ、楯節舞ヲ奏ス、諸臣互ニ進テ、各が先祖等ノ所仕狀ヲ誄シ、次ニ蝦夷百九十餘人調賦ヲ負荷テ誄シ、乙丑布勢朝臣御主人等遞ニ進テ誄シ、當麻真人智德皇祖等ノ騰極次第ヲ誄奉リ畢テ、大内陵ニ葬ル、以上ノ文、日ヲ隔テ年月ヲ異ニセル所モアレド、甚ク

ハブキテ、大畧ヲ記セリ、委シキ一ハ本書ニ就テミルベシ、トアリテ、殯宮ニ置奉ル間、莫ヲ奉リ、誄ヲ申シ、華縵ヲ奉リ、慟哭發哀歌舞等種々ノ禮儀ハアレド、御葬ノ日ニ至リテ、騰極ノ次第ヲ申シタルハ、舒明天皇ノ御葬ノ時終リノ日ニ、日嗣ノ一ヲ誄申ストアルニ、堅鹽媛ノ御葬儀ヲ合セ考ルニ、終ノ日ニハ、殊ニ明夜明器ノ類ヲ多ク備ヘテ、騰極ノ故由ヲ申奉ルガ定リナリシナルベシ、此後ハ誄ノサマモ、前ニ云フ處トハ替リテ、謚ヲ奉ルトナレリ、持統天皇ノ御謚ヲ、大倭根子天皇、廣野日女尊、文武天皇ヲ倭根子葬リ終テ、豐祖、父天皇、ト申奉ルガ如キ類ナリ、

被ヒスル一ハ、伊弉諾尊阿波岐原ノ被禊ヨリ起レル禮儀ニシテ、歷代ノ天皇等ヲ始メ、下ガ下マデ行ヒタリシ故ニ、漢籍ニ、已葬舉家詣水中澡浴、以如練沐、トモ書シナルベシ、又陵墓ニ常磐木ヲ殖エ、墓誌ヲ埋メ、碑ヲ建テ、墓門ニ鳥居ヲ設ル制モアリ、其ハ續紀ニ、氏々祖墓及百姓宅邊栽樹為林、并周二三十許步、不在禁限、マタ元明天皇ノ遺詔ニ、其地者皆殖常葉之樹、萬葉集ニ、カツシカハマ、ノ手兒名ガ墓ヲ、ニ、トハ聞ド、真木葉ヤ、茂リタルラム、松ガ根ヤ、遠久シキ、云々、墓ノ上ノ木

枝靡ケリ、云々ナドアルハ、本墓ノ標ニ植ルイハ
 著ケレド、墓ヲ築成セル土ノ、雨風ナドニ崩レ易
 キヲ、其木ノ稍生繁リ往クマ、ニ根ノ蕃衍ツ、
 土ヲモ堅固ムルモノナレバナルベシ、碑ハ靈異
 記ニ、小子部栖輕之碑文ニ取雷栖輕之墓也、マタ
 生之死之捕雷栖輕之墓ト記シ、天智紀鎌足公薨
 下、註ニ、碑曰、春秋五十有六而薨、マタ天武天皇ニ
 仕奉レル那須國造韋提ノ碑、元明天皇御陵ノ碑
 文アリ、墓誌ハ、船史王後首小野朝臣毛人伊福吉
 部德足比賣吉備真備ノ亡妣楊貴氏高屋連故人

紀廣純ノ女吉繼、威奈大村ノ墓誌ナド古クミエ、
 長元九年四月廿二日ノ左經記、マタ真言宗葬法
 密ト云古書ニ、鳥居ヲ南面ニ立ル事ミエタル證
 トスベシ、又喪葬令ニ、皇親皆土部示禮制、凡三位
 以上、及別祖氏宗、並得營墓、以外不合、云々、凡墓皆
 立碑記、具官姓名之墓、凡喪葬不能備禮者、貴得同
 賤々、不得同貴ト云リ、土部トハ上ニ見エタル野
 見宿禰ノ裔ナル土師氏ノトニテ、此氏人ハ世々
 葬禮ヲ掌リシ故ニ、皇親ノ爲ニ禮制ヲ示ストハ
 云ルナリ、職員令ニモ、諸陵司土部十人、掌贊相凶

神皇正統記 卷之

禮トアル注ニ、凶禮ハ終ヲ送ルノ禮ナリ、即土師宿禰年位ノ高ク進メル者ヲ大連トシ、其次ヲ少連トシ、並ニ紫衣刀劔シテ、世々凶儀ヲ執ルトアル是也、別祖トハ、別族ノ祖ニテ、氏宗ハ氏中ノ宗長ヲ云リ、古ヘハ別祖氏宗ノ外ハ、墓ヲ營ルト能ハザリシナレド、今ハ庶民マデモ墓ヲバ營ムトニテ、其碑ハ官位アル者ハ、官位姓名之墓ト記スガ御制度ナリ、又喪葬ニ禮ヲ備ヘ難キ者ハ、貴キ人ハ賤シキニ同シクシ、賤シキ人ハ貴キ人ニ同シキトヲ得ザラシムトナリ、カク我皇國ノ葬儀

ハ、支那ノ制ニ因シニモアラズ、又印度ノ風ニ從ヘルニモ非ズシテ、上代ヨリ神聖ノ定メ玉ヘル禮儀ナル故ニ、古ヘハ天皇ノ崩御ヲバ、神上リトモ、神避トモ申シ、殯宮ヲバ神宮ト云ヒ、御葬ヲ神葬ト申シテ、甚嚴重ニ仕ヘ奉リシヲ以テ、大御葬ニ僧徒ノ預リ奉ルトハナキヲ、持統天皇崩御ノ時、火葬ヲ行ヒ玉ヒ、聖武天皇ハ御葬ノ儀、佛ニ奉ルガ如クセヨト詔ヘリ、此頃ヨリ僧徒モ御葬ニ預リケン、故レ承和ノ時ハ、尊骸ニ火ヲサシ、御骨ヲ野山ニ散シ、山陵ヲ作ルト勿レ、葬司ヲ任ス

勿レナド云フヲ專ラトシ玉ヒシカバ土師氏ノ
 葬儀ニ與ルコトモ止テ、殯宮ノ御膳人長、マタ年終
 ノ奉幣、諸陵ノ御使モ、皆所司ヲ充ル制トセラレ
 シヨリ、ヤ、ニ喪祭ノ古禮モ衰へ、禰宜祝部等モ、
 中世ノ亂ニ、其傳ヘヲ失ヒ、外國ノ禮ヲ取雜ヘテ
 造レル類モアルヲ、實ニ古ヨリノ禮儀ゾト思ヒ
 惑ヘルヲ、今ハ何事モ古ニ復サセ玉フ御世ナル
 ニ合セテ、皇子皇孫ノ御葬祭モ、古禮ニ遵ヒ坐ル
 ヨリ、其教化ノマニク古式ヲ行ナハント思フ人
 ノ世ニ多カルハ、オムガシキ事ナリケリ、サレド

其儀式ニ至リテハ、上下貴賤ノ差別モアテレバ
 前條ニ云ル事ドモヲ斟酌損益シテ、實事ニ施シ
 行ハバ、實ニ島國ノ人民タルヲ失ザルノミカ
 ハ、先祖父母ニ甚純孝ナル人ト謂ツベキ也

弘通

大坂心齋橋南一丁目

松村九兵衛

同安土町

書林會社

書房

東京大傳馬町三丁目

東生龜次郎

